

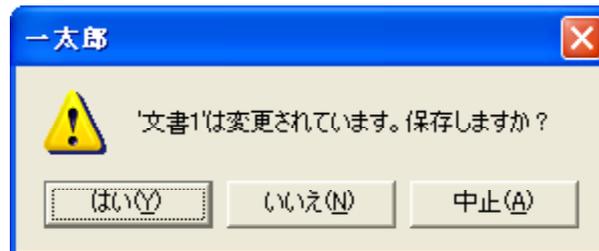
yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 17

平成19年6月7日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

はい・いいえ・キャンセル



また出ました。よく見かけるこのウィンドウ、注意して見ると、「はい」のところには、(Y)がついています。これはどういう意味かというと、キーボードのYボタンを押して返事をすることもできる、という意味です。

Nなら「いいえ」です。ちなみに、英語版のアプリケーションでは、Yesと書かれています。Yは、YesのYなんですね。そうしてみると、ファイル(F)はFile、編集(E)はEdit、表示(V)はView、挿入(I)はInsertと、英語の単語から来ているのが分かります。これらのアルファベットは、コンピュータを操作するためについています。そうしてみると、至る所にこういったアルファベットがついていますね。つまり、マウスで返事をする代わりに、ほとんどのところで、キーボードを使った返事の仕方ができる、という意味です。

ちなみに、メニューバーの項目を選択するときは、あらかじめAltキー(オルトキー)を押してからアルファベットを押します。Altキーを押すと、メニュー項目が反転表示になったり、ボタンを押した形になったりして、表示が変化します。これを元に戻す(キャンセル)のはもちろんEscキーです。

無数にあるダイアログボックス(アプリケーションソフトの中で、いろいろな設定ができる小さなウィンドウのこと)のほとんどの項目に、アルファベットが付いていますが、そのままキーを押していい場合と、Altキーと組み合わせて使う場合があります。画面をよく見て、例えばどこか文字を入力するフィールド(書き込む欄)にカーソル(点滅する縦棒)があれば、Altキーが必要です。(そのままキーを押せば、フィールドに書き込むことになってしまいますね。)

コンピュータが、その時点で「何を待っている」のかが、早く分かると、返事(コンピュータへの応答)もスムーズで、うまく動かない、というストレスからも解放されます。一方的に指示することばかり考えるのではなく、コンピュータとコミュニケーションをとりながら操作する習慣を、是非つけていただきたいと思います。そうすれば、コンピュータと仲良くできて、道具として役に立てることにつながります。